

令和 6 年度 芦屋町歴史民俗資料館事業計画

芦屋町の貴重な歴史・文化を後世に伝えるため、各種事業を実施する。

1. 特別企画展の実施 年 2 回

(1) 「ミシンと洋服（温かさと思い出と）」 [2月6日（火）～5月6日（月祝）]

第二次世界大戦後の日本で、大衆の日常着が和装から洋装へ切り替わっていくのと共に花開いた「洋裁文化」。技術がなくても作れるお手製服から最新のファッション情報を伝える雑誌の歩み、ミシンの普及と洋裁学校の隆盛、身近な服飾の変遷などから、近代のアパレル産業の下地となった洋裁文化の実態を、身近な衣服の歴史から考える。

(2) 芦屋歴史の里移転開館 20 周年記念特別展「妖怪！百鬼夜行～海にひそむもののけたち～」

[7月13日（土）～9月16日（月祝）]

芦屋歴史の里の移転開館 20 周年を記念して、海の妖怪を主なテーマとした特別展。芦屋町に伝わる海に関連する妖怪や伝承を中心に、もののけたちの姿を楽しく、わかりやすく紹介する。

(3) 「福岡県立美術館所蔵品巡回展 移動美術館展」 [令和 7 年 2 月 22 日（土）～3 月 16 日（日）]

福岡県立美術館のコレクションから選び抜いた美術作品を芦屋釜の里、芦屋町歴史民俗資料館、ギャラリーあしやの 3 館で展示する。多くの方が身近に美術鑑賞できるきっかけをつくることと、3 館の魅力を広く周知することを目的とする。

2. 指定民俗行事の記録・調査・継承・育成

(1) 八朔行事の継承、育成

わら馬づくり講習会を行い、八朔行事を周知する。実際に八朔行事を実施される方には、写真撮影・寄贈を行う。

(2) はねその継承、育成

講習会や盆踊りなど、はねそ保存会の活動を支援する。戦没者慰霊盆踊り（はねそ披露）

3. 指定文化財の保存・活用

(1) 町指定文化財の新規登録

金屋遺跡出土品及び合戦ヶ原出土平釜の新規登録を行う。

その他の文化財についても、今後の指定に向け検討を行う。

(2) 県・町指定文化財の保存・活用

定期的に県・町指定文化財の見回りを行い、適切な保存に努める。併せて、解説や展示等での活用を図る。

4. 小中学校との連携による、児童・生徒の郷土史理解に向けた支援及び事業の実施

小中学校の施設見学や職場体験などに協力し、児童・生徒の郷土史への理解を深める。

5. 各種講座の実施

(1) 歴史探訪バスツアー [①4月20日(土)、②11月30日(土)、③12月15日(日)]

「考古学」をテーマに各地を訪れ、歴史・文化への理解を深める。

- ① 筑豊 筑豊の古代豪族を巡る旅
- ② 豊前 八幡神の起源を探る
- ③ 佐賀 吉野ケ里遺跡と吉野ケ里以前

※③佐賀 吉野ケ里遺跡と吉野ケ里以前は、当初10月19日(土)に実施予定でしたが、業務の都合により、日程を変更することとなりました。

(2) 化石探検 [6月16日(日)]

化石が出土する堂山周辺において、化石に詳しい講師を迎えて化石を探す体験を行い、地域の歴史や自然についての知識を深める。

(3) 八朔のわら馬づくり講習会 [5月19日(日)]

わら馬づくりを実際に体験してもらい、次代への製作技術の継承を図るとともに、地域の民俗行事への関心を高める。

(4) 歴史体験講座 [11月10日(日)]

昔のもののづくりを体験してもらうことで、当時の人々の生活について理解を深め、歴史や民俗への関心を高める。

(5) 郷土史跡めぐり [①9月28日(土)、②令和7年3月22日(土)]

史跡を歩いて巡り、身近にある郷土の歴史について理解を深める。(行程が町外に及ぶ場合はマイクローバスを使用)

- ① 焚石会所と安川一族
- ② 山鹿旧市街地探訪

6. 収蔵史資料の整理・保存、データベースの保存

新規収蔵資料の登録・既存収蔵資料の整理などを行い適切に管理する。

7. 芦屋町郷土史研究会への活動支援

芦屋町郷土史研究会が主催する、学習会や史跡めぐり等の事業について活動を支援する。

8. 町内に残る民俗・芸能に関する調査

町内に残る民俗・芸能について、聞き取りなどにより調査を行う。(随時)